

今後の JMAT チーム派遣活動に望むこと

糸魚川市医師会長

室 川 諭

今回の大震災の医療支援に当たっては、糸魚川市医師会として3名の会員（森田 英、真部一彦、鈴木修一郎各先生）が各々個別にチームを組み、糸魚川総合病院が災害拠点病院としてチームを組み被災地に医療支援に向かい、会長として大変感謝している。

糸魚川市医師会は診療所単位として21の医療機関しかなく、今回の JMAT チーム派遣要請に対しては大変な不安と困難を感じたが、上記3名の会員にいち早く参加の意思表示を頂き大変有り難く思っている。

今回の JMAT チーム派遣要請は県内16医師会に対し、会員数の多少に関わらず同等の派遣要請がなされたが、このような急を要する非常状態においては特別なチームの編成方法が今後必要かと

思う。医師一人での参加も可との通達もあったが、県医師会等が指導し、16医師会を地域別に4～5のグループに分け、その中で派遣チームを構成することを考えて頂ければより参加しやすかったかと思う（前もって打ち合わせ、協議、組織作り等が必要と思うが）。

上記3名の先生方には7月発行の「糸魚川市医師会 医師会便り」に支援に向いた際に経験した事、問題点等を手記の形で掲載して頂き、又、10月12日開催の第12回糸魚川救急医療懇談会で活動内容、問題点をご報告頂いた。今回の「医療支援記録集」原稿要請にも実際に経験した事を基に執筆をお願いしたが、貴重な資料とさせて頂ければと思います。